

教育課程改善につなげるための個別の指導計画の活用

～学級目標と個別の指導計画の関連に着目して～

○長谷川哲

藤井和子

(新潟県立東新潟特別支援学校)

(上越教育大学)

KEY WORDS: 教育課程 個別の指導計画 学級目標

(問題と目的)

学習指導要領改訂の時期が近づいてきている。幼稚園は平成30年度から、小学校は平成32年度、中学校は平成33年度、高等学校は平成34年度からの完全実施予定である。中央教育審議会(2016)の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」では、①「社会に開かれた教育課程」の考え方、②資質・能力についての基本的な考え方、③「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた指導方法の充実、④カリキュラム・マネジメントなどは、特別支援学校においても重視することが必要であると記されている。

特別支援学校の教育課程について、安藤(2009)は、「準ずる教育を除いては、いつ、何を指導するか、どのくらい時間を充てるか詳細な規定はない。各学校が児童生徒の障がいの状態や特性を踏まえて決定することになる。決定された教育課程は、根拠に基づいた説明が求められる。」と述べている。加えて、「教育課程編成においては、法令および学習指導要領に従うことというトップダウンの視点と児童生徒の障害の状態および発達の段階や特性等を考慮すること、地域や学校の実態を十分考慮することというボトムアップの視点を踏まえることが極めて重要となる。」とも述べている。

一木(2016)は、自立活動を主として指導する教育課程の現状として、「学校として『特に必要がある場合』と判断した根拠を説明できない、教科と自立活動の区別が曖昧なまま替えている、卒業後の社会生活を送る視点から捉えた学校教育の評価、特別支援学校(知的障害)では、自立活動の時間を『特に設定していない』の割合が他の校種に比べて特に高い」などの課題を示している。さらに、「各授業や個別の指導計画のPDCAと教育課程のPDCAがつながっていないという課題もカリキュラムマネジメントの前提として必要な視点。」として指摘している。

そこで本研究では、次期学習指導要領でも重視される教育課程について、根拠に基づいた教育課程となるように個別の指導計画と学級目標の関連に着目し、当校の教育課程の現状と課題を明らかにする。併せて、課題に対する実践の経過をまとめ、教育課程改善における基礎的知見を得ることを目的とする。

(方法)

- 1 河合(2010)の教育課程の基本構造の図を参考に当校の教育課程における現状と課題を明らかにする。
- 2 課題に対する改善事項を検討する。
- 3 改善事項に基づいた実践を行い、まとめる。

なお、本実践は、2016年度から2017年度に行っている研究であり、本発表では実践の途中経過を報告する。

(結果と考察)

1 当校の教育課程の現状(2016年度)

1) 学校教育目標

- (1) 生理的基盤を整え、健やかに生きる。
- (2) 可能性を追求し、自分らしく生きる。

(3) 豊かな学力を身につけ、いきいきと生きる。

(4) 人や社会とかわりながら、共に生きる。

2) 学部目標

(1) 生理的基盤や生活リズムを整え、健康なからだをつくる。

(2) 自分の可能性を知り、自分の良さに気づく。

(3) 体験を通して、自分の世界を広げ、感じる力、考える力、表現する力をつけ、のびのび学ぶ。

(4) 相手を知ったり、自分の気持ちを表現したりして、人とのかわりを楽しむ。

3) 学級目標

(1) 生活リズムを整え、健康な体づくりをする。

(2) 大人とのかかわりの中で笑顔、発声、喃語など表現する力を豊かにし、人や物に自分から働き掛けていく力を育てる。

(3) 大人とのかかわりを通して、集団に参加する力を育てる。

4) 個人目標(個別の指導計画より抜粋)

(1) 力を抜いて30秒姿勢を保持する。

(2) 握る、離すなどの手指の操作性を高める。

(3) 要求サインの定着を図る。

2 当校の教育課程の課題

1) 学校教育目標から学部目標、学級目標へとトップダウンの視点で設定されているが、個人目標はボトムアップの視点で個の実態から目標を設定するため、学校教育目標などの項目全てに個人目標が該当しない。そのため、学級目標と個別の指導計画のつながりができにくい。

2) 学校目標、学部目標、学級目標には、明確な評価基準などが設定されていないため、評価が曖昧になりやすく、目標が達成されたかどうかの判断がつきにくい。

3 課題に対する改善事項

1) 課題①に対して

学級目標を設定する際に、在籍児童全員の個人目標と学部目標を加味して、目標を設定する。個人目標の欄に関連する学級目標の番号を記す。

2) 課題②に対して

在籍児童の個人目標の達成度を学期末または年度末に明らかにする。学級目標と個人目標の関連が示されていれば、学級目標の達成度は、在籍児童〇名中、〇名達成という達成率が明らかとなり、学級目標の評価材料とする。

(文献)

安藤隆男(2009)「特別支援教育における教育課程の開発と編成」安藤隆男・中村満紀男編著『特別支援教育を創造するための教育学』明石書店。pp220-229。

中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

一木薫(2016)「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の適用により実施されている教育内容の現状と課題。中央教育審議会特別支援教育部会(第7回)資料5。

河合康(2010)「特別支援教育をめぐる教育課題の諸課題～新学習指導要領を視野に入れて～」国立特別支援教育総合研究所平成20～21年度研究成果報告書。

(HASEGAWA Tetsu, FUJII Kazuko)